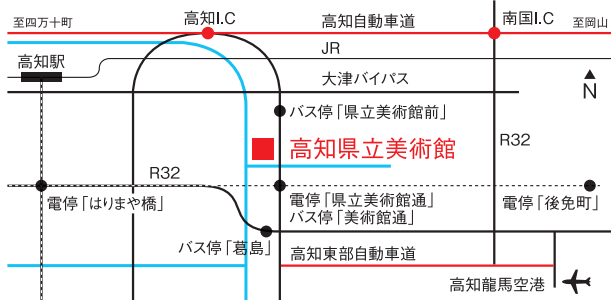




雪の上の図書館 / YURURUゆすら 2018 ©Kawasumi・Kobayashi Kenji Photograph Office

日時指定予約について
ウェブサイトから入場される日時の指定をお願いします
(詳細はウェブサイトにてご確認ください)
<https://www.e-tix.jp/kumakengo-kochi/>
会場では当日券を販売していますが、混雑状況により入場まで館外でお待ちいただく場合、もしくは、当日の入場可能人数に達したため入場いただけない場合がございます。日時指定の際にチケットも購入できます。

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI
781-8123 高知市高須353-2 Tel.088-866-8000



「はりまや橋」から、とさでん交通路面電車
「ごめん」、「領石通」または「文珠通」行きで15分、
「県立美術館通」下車徒歩5分

高知龍馬空港からは、高知市内一空港間を結ぶ
とさでん交通の空港連絡バスがご利用いただけます。
バス停「葛島」で下車徒歩約15分

車・タクシーをご利用の場合は
JR高知駅から約20分、
高知龍馬空港からは30分、
高知自動車道南国インターから15分、
高知インターから10分

新型コロナウイルス感染拡大防止のためご協力をお願いいたします。
・マスクの着用
・適切な距離を保つての鑑賞
・手指のアルコール消毒

11月3日(火・祝)
開館27周年記念「空を駆けるサーカス」開催
高知県立美術館外庭にて

本展は以下の会場に巡回します(出品内容に一部変更があります)。
長崎県美術館 2021年1月22日(金)~2021年3月28日(日)
東京国立近代美術館 2021年6月18日(金)~2021年9月26日(日)

TUE: 3 NOVEMBER 2020 –
SUN: 3 JANUARY 2021
Closed from SUN. 27 DECEMBER through FRI. 1 JANUARY
Hours: 9:00 to 17:00 (Last entry at 16:30)



観覧料:
・一般1,300(1,100)円
・高校生・大学生800(600)円
・小学生・中学生500(300)円

日時指定をお願いします。
くわしくは裏面をご覧ください。

※()内は前売り及び20名以上の団体割引料金
※未就学児童は無料
※年間観覧券所持者は当日料金の半額
※身体障害者手帳、療育手帳、
精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び
被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、
高知県及び高知市の長寿手帳所持者は1,000円
※第3展示室のみ無料でご覧になれます

前売券販売所:
高知県立美術館ミュージアムショップ
高知プレイガイド
高知市文化プラザミュージアムショップ
サニーマート(毎日屋、一部店舗を除く)
高知県庁生協売店
金高堂書店本店
TSUTAYA(高屋書店除く)
ローソンチケット(Lコード 61965)
※ローソンチケットのみ高知県外店舗でも
販売しています。

Admission Fee (advanced tickets)
-Adults:
JPY 1,300 (JPY 1,100)
-University & High School Students:
JPY 800 (JPY 600)
-Middle & Elementary School Students:
JPY 500 (JPY 300)
*Free admission for preschool children
*Discounted prices in parenthesis apply
to groups of 20 members or more.
*JPY1,000 for these with:
Physical Disability Cards,
Care Assistance Cards, Disability Cards,
War Wounded Veteran Cards or
A-Bomb Victim Health Cards,
and 1 accompanying caregiver,
as well as holders of
Kochi City or Prefectural Senior Cards.

<https://moak.jp>

テレビ高知開局50周年記念事業
令和2年度第70回高知県芸術祭共催事業
50th anniversary of TV Kochi Broadcasting
Kochi Art Festival 2020

2020年(令和2年)11月3日(火・祝)–
2021年(令和3年)1月3日(日)
12月27日(日)–1月1日(金)は年末年始休館 開催時間:9:00–17:00(入場は16:30まで)

隈研吾展

新しい公共性をつくるための 猫の5原則



KUMA KENGO:
FIVE PURR-FECT POINTS
FOR A NEW PUBLIC SPACE

主催:
隈研吾展高知実行委員会
東京国立近代美術館
文化庁
独立行政法人日本芸術文化振興会

後援:
高知県
高知市
高知県教育委員会
高知市教育委員会
高知新聞社
KCB高知ケーブルテレビ
エフエム高知
高知シティFM放送

協賛:
大成建設株式会社
大洋建設株式会社
株式会社長谷工コーポレーション
大日本印刷株式会社
前田建設工業株式会社
株式会社イトーキ
株式会社大林組
鹿島建設株式会社
コクヨ株式会社
小松マテリア株式会社
株式会社佐藤秀
清水建設株式会社
株式会社JR東日本建築設計
住友林業株式会社
太陽工業株式会社
大和ハウス工業株式会社
大和リース株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社丹青社
TSUCHIYA株式会社
東急建設株式会社
TOTO株式会社
戸田建設株式会社
株式会社乃村工業社
不二サッシ株式会社
三井住友建設株式会社
株式会社岸之上工務店

協力:
エヌビディア合同会社
小松マテリア株式会社
富山市(富山県)
長岡市(新潟県)
株式会社 日本HP
V&Aダンディー
真庭市(岡山県)
株式会社モデュレックス
株式会社モノファクトリー
株式会社YAMAGIWA
梶原町(高知県)

助成:
公益財団法人 大林財団

デザイン: 近代美術館 (ナショナル) 2019 ©Enrie Atsui

東京オリンピック・パラリンピック2020のメイン会場に予定される《国立競技場》の設計に参画するなど、現代日本を代表する建築家のひとり、隈研吾（1954-）の大規模な個展を開催します。

その土地の環境や文化に溶け込むように設計される彼の建築には、自ずと多くの人が訪れ時を過ごすことになります。2018年にスコットランドに開館した《V&A ダンディー》は、米TIME誌により「2019年、世界で訪れるべき最も素晴らしい場所100選」のひとつに選ばれました。

本展は隈建築の中から公共性の高いものを中心に30件を選び、全点に隈自身による作品解説をつけて紹介します。公共性といっても、新築の庁舎のような大きな公共建築だけでなく、リノベーションによる居酒屋のような小さな建築も含んでいるのがポイントです。それらが「孔」「粒子」「ななめ」「やわらかい」「時間」という隈が考える5原則によって分類された上で、模型や写真やモックアップによって紹介されます。

また、瀧本幹也、藤井光、津田道子、マクローリン兄弟など第一線で活躍するアーティストに映像作品をコミッションし、隈建築を、造形性だけでなく、どのように使われているか、いかに街と関係を結んでいるかといった観点から見ていただく空間を用意しました。内部空間をリアルに体感できる360度VRもあります。

さらに、ネコの視点から都市を見直すリサーチプロジェクト《東京計画2020 ネコちゃん建築の5656原則》も発表されます。今の時代、都市についてなにかを提案するとしたら高度経済成長期のように都市を上から見るのではなくて下から見るべきである、そう考えた隈が着目したのは、なんと動物のネコでした。本展では、Takram との協働により神楽坂でのフィールドワークやGPS測定を実施し、そのリサーチの成果を、3DCGやプロジェクションマッピングを用いて展示いたします。

コロナ禍というきわめて難しい時代の中で開催される本展が、新しい公共性や未来の都市のあり方について考える機会となれば幸いです。

1. 「人が集まる場所」のための隈独自の的方法論を、5原則の形で抽出

本展では、隈自身が選んだ公共性が高い建築30件を、時系列ではなく、「孔」「粒子」「ななめ」「やわらかい」「時間」という5原則に分類して紹介します。



本展のみどころ



上：プザンソン芸術文化センター（フランス）2012 ©Stefan Girard
左：The Exchange（オーストラリア）2019 ©Martin Mischkulnig
下：ちょっ蔵広場 2006 ©Daici Ano



It is with great pleasure that we announce a major solo exhibition of the work of Kuma Kengo (b. 1954), one of Japan's leading contemporary architects, which includes his participation in the design of Japan National Stadium, scheduled to serve as the main venue for the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games.

Kuma's buildings, designed to blend in harmoniously with the local environment and culture wherever they are located, naturally draw large numbers of visitors who spend significant amounts of time there. Among them is the design museum V&A Dundee, which opened in 2018 in Scotland and was selected as one of "Time magazine's list of the world's greatest places to visit in 2019."

This exhibition features 30 designs selected from among the Kuma projects, with a focus on those of a highly public nature, and each is introduced via a description of the work by Kuma himself. Here, the point of focusing on the public sector is to showcase not only large-scale public structures such as newly built government offices, but also small-scale projects such as renovated restaurants. The designs are categorized according to five principles that Kuma has conceived — "hole," "particles," "oblique," "softness," and "time" — and presented in the form of models, photographs, and mockups.

In addition, video works have been commissioned from cutting-edge contemporary artists such as Takimoto Mikiya, Fujii Hikaru, Tsuda Michiko, and the McGloughlin Brothers, and visitors will be immersed in a space that highlights not only formal aspects of Kuma's architecture, but also how it is utilized and how it relates to the surrounding community. There will also be a 360-degree VR simulation that allows people to experience interior spaces with maximum realism.

Also on view will be the results of "A Plan for Tokyo, 2020: Five Purr-fect Points for Feline Architecture," a research project that reinterprets the urban environment from the perspective of cats. In the belief that our current era calls for exploring new ideas for the city by looking at it not from above, as in Japan's postwar period of rapid economic growth (c.1954-1972), but from below, Kuma arrived at the idea of adopting cats' vantage point. For this exhibition, he collaborated with the design engineering firm Takram and conducted fieldwork and GPS tracking in Tokyo's Kagurazaka neighborhood, and presents the study's outcomes using 3D computer graphics and projection mapping.

The organizers' hope is that this exhibition, which will take place during a time of numerous challenges due to the COVID-19 crisis, will offer valuable opportunities to think in new ways about public space and the future of the city.

2. 先端技術を用いた体験展示

隈たちが設計した建築の「実際」を、本展のために制作された新作映像を通して紹介します。

梼原にある6つの隈建築×瀧本幹也（＋坂本龍一）
高知県梼原町には隈建築が初期から現在まで6つもあります。これを写真家・映像作家の瀧本幹也がハイスピードカメラを用いて撮影。リアル4Kによる映像インスタレーションへと昇華させました。坂本龍一の音楽とともに、環境に溶け込む隈建築の造形美をご堪能あれ。



©Mikiya Takimoto

スコットランドにできた新しい美術館×タイムラプス映像
ヴィクトリア&アルバート美術館にとって初の分館となる《V&A ダンディー》の設計者に選ばれたのが隈研吾でした。これを、アイルランドのマクローリン兄弟によるアヴァンギャルドなタイムラプス映像で紹介します。



V&Aダンディー（英国）2018 ©Hufton+Crow

富山市民に人気の図書館・美術館・銀行の複合施設×360度VR
《TOYAMAキラリ》の特長は斜めにたちあがる吹き抜け空間。そこにドローンを飛ばして360度VRで撮影しました。実際には立てない視点から見えてくる隈建築の魅力とは!?

高知の皆様へのメッセージ

僕が事務所を始めて、バブルがはじけたりして大変なことがあったちょうどその時に、梼原町で、自分の建築の方向性ともいうべきものを見つけたことができました。ものすごくお世話になり、思い出もたくさん詰まった高知県という場所で展覧会ができるということを、楽しみにしています。 隈研吾

Message to the people of Kochi

When I started my office, the economic bubble burst and other difficult times came around, and in Yusuhara, I was able to find what I would call the direction of my architecture. I am looking forward to holding an exhibition in Kochi Prefecture, a place that has helped me tremendously and is filled with memories. Kuma Kengo



Photo © J.C. Carbonne

隈研吾氏のプロフィール

1954年生。東京大学建築学科大学院修了。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。2009年より2020年3月まで東京大学教授。2020年4月より東京大学特別教授。1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の国立屋内総合競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案。また、コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。これまで20か国を越す国々で建築を設計し、日本建築学会賞、毎日芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、国際木の建築賞（フィンランド）、国際石の建築賞（イタリア）等、受賞多数。

Biography of Kuma Kengo

Born in 1954. Before establishing Kengo Kuma & Associates (KKA) in 1990, he received his Master's Degree in Architecture from the University of Tokyo, where he is currently a University Professor of Architecture. Having been inspired by Tange Kenzo's Yoyogi National Gymnasium, built for the 1964 Tokyo Olympics, Kuma decided to pursue architecture at a young age, and later entered the Architecture program at the University of Tokyo, where he studied under Hara Hiroshi and Uchida Yoshichika. After his time as a Visiting Scholar at Columbia University in New York, he established his office in Tokyo. Since then, KKA has designed architectural works in over twenty countries and received prestigious awards, including the Architectural Institute of Japan Award, the Mainichi Art Award, the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology's Art Encouragement Prize, the Spirit of Nature Wood Architecture Award (Finland), and the International Stone Architecture Award (Italy), among others. KKA aims to design architecture which naturally merges with its cultural and environmental surroundings, proposing gentle, human scaled buildings. The office is constantly in search of new materials to replace concrete and steel, and seeks a new approach for architecture in a post-industrial society.

3. 各地の市民に協力してもらった映像作品も

気鋭のアーティスト、藤井光が市民ボランティアやNPOの協力を得て《アオーレ長岡》の日常を撮影。また津田道子が南三陸と熊本で、施主や利用者のインタビューを撮影しました。



アオーレ長岡 2012 ©by FUJITSUKA Mitsumasa

4. クマは思う、都市の未来はネコに学べ、と

丹下健三が前回の東京オリンピック前の1961年に発表した《東京計画1960》への応答として、隈が今回 Takram とともに作成した《東京計画2020》の「2020」は、「にゃんにゃん」と読みます。



©Kengo Kuma and Associates ©Takram

5. 国立競技場のスタディ模型と照明を特別にお見せします。

選手や関係者以外はまず見るできないエリアにある大型の提灯のような照明も隈によるデザイン、これを本展では特別に公開します。また設計のプロセスにおいて大量につくられたスタディ模型の中から、約40点を厳選して展示します(展覧会としては世界初公開!)。

6. もちろん展示デザインは、隈研吾建築都市設計事務所が担当します。

7. 日本博事業の一環としての「くまてん」

日本博主催・共催型プロジェクトの一環として制作された《東京計画2020》、360度VR、インタビュー映像を会場でご覧いただけます！

